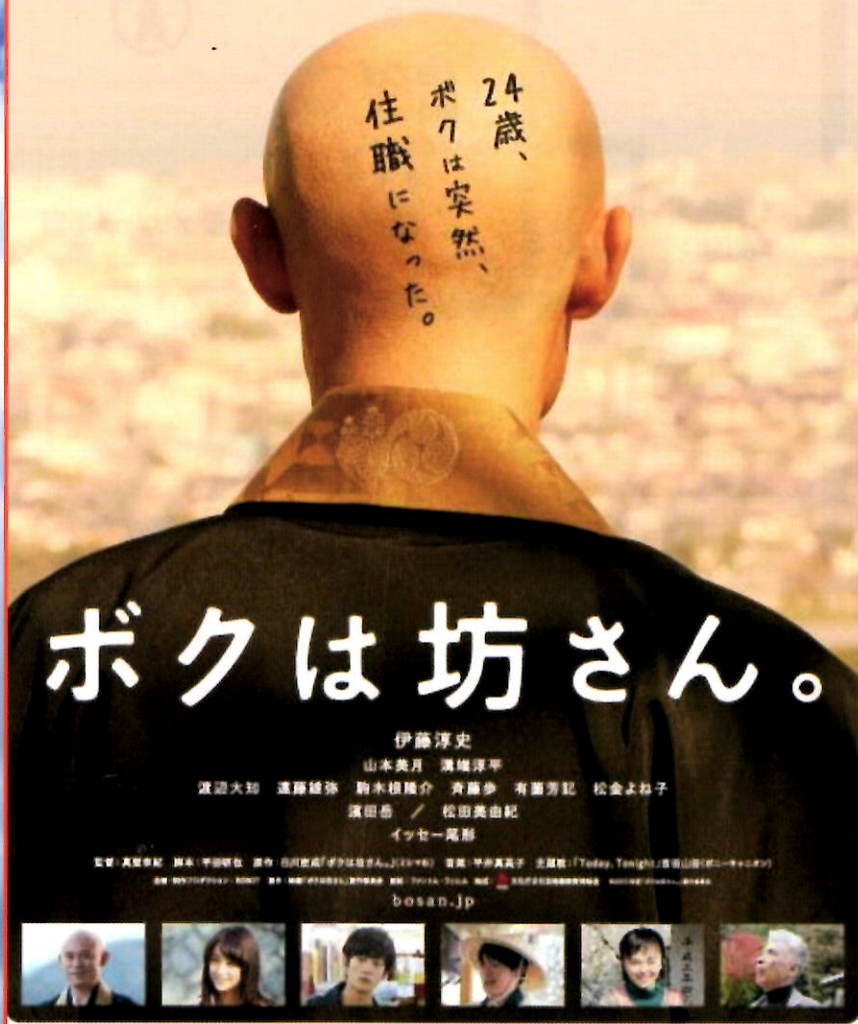


「ALWAYS 三丁目の夕日」スタッフ×「ほぼ日刊イトイ新聞」の人気連載
住職が自らの体験をもとに綴ったエッセイを映画化!



第20回
人権フェスタかんざき
映画会
ボクは坊さん。

※スリッパ等のご持参下さい。
※マスクを着用して下さい。

©2015 映画「ボクは坊さん。」製作委員会 配給: ファントム・フィルム

日時: 2022年 **6月12日** (日) 定員: 各 **100人**
 午前の部 **10:00** ~ 午後の部 **13:30** ~ (上映時間 113分)
 会場: 神前小学校体育館 託児なし 参加費無料 事前申込必要
 主催: 「第20回人権フェスタかんざき」実行委員会
 【お問合せ・お申込先】
 神前地区市民センター内団体事務局(月~金 13時~17時) TEL/FAX **327-1501**

参加 申込み (メ切 5/31)

希望する回に○	午前の部	午後の部	代表者の住所 〒
参加する人の名まえ			電話番号

至 菰野町 至 東名阪四日市インター

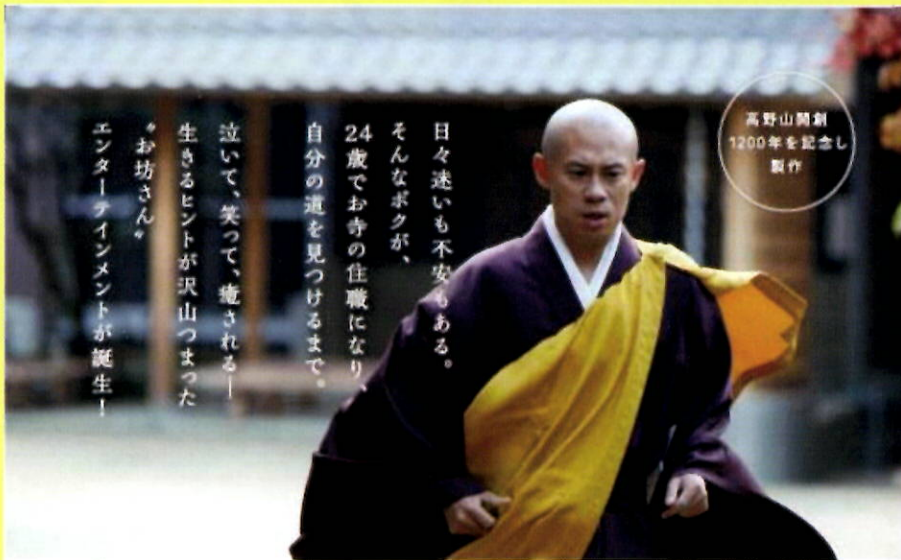


【会場案内図】

【参加の皆さまへ】

- ① 駐車場は神前小学校内運動場です。(係員の誘導に従い駐車してください。)
- ② 新型コロナウイルス感染症に係る四日市市の対応方針に基づいて開催します。
- ③ 新型コロナウイルス感染症に関わるまん延防止等重点措置、緊急事態宣言が発令された場合は中止とします。
- ④ マスクの着用をお願いします。
- ⑤ 中止の場合は、神前地区ホームページ等でもお知らせします。

<https://kanzaki-yokkaichi.com>



高山山開創
1200年を記念し
制作

日々迷いも不安もある。
そんなボクが、
24歳でお寺の住職になり、
自分の道を見つけるまで。
泣いて、笑って、癒される—
生きるヒントが沢山つまった
お坊さん。
エンターテインメントが誕生！

白方光円、24歳。突然の祖父の死をきっかけに、四圍八十八ヶ所霊場、第57巻札所・染福寺の住職になったばかり。この寺で生まれ育ったけれど、住職として足を踏み入れた「坊さんワールド」は想像以上に奥深いものだった！

初めて見る坊さん専用グッズや、個性豊かな僧侶との出会いにワクワクしたり。檀家の人たちとの関係に悩んだり。お葬式や結婚式で人々の人生の節目を見守るのももちろん、地域の「顔」としての役割もある。職業柄、人の生死に立ち会うことで「生きるとは何か？ 死生とは何か？」と考えたりもする。坊さんとしての道を歩み始めたばかりの光円に何が出来るのか。何が伝えられるのか。光円は試行錯誤を繰り返しながら、人としても成長していく……。

24歳で坊さんになった主人公・白方光円を説得力たっぷりに演じるのは、伊藤淳史。温かく人情味にあふれ、「こんな坊さんに近くに

いてほしい」と誰もが思うような、魅力的な光円像を体現している。光円を取り巻く人々を演じるのは、山本美月、清塚信平、濱田岳、松田美由紀、そしてイッセー尾形など、個性的なキャストたち。それぞれに味わい深い演技で、感動のドラマを盛り立てる。

原作は、染福寺の住職・白川密成氏が実体験を生き生きとつづった「ボクは坊さん。」。「ほぼ日刊イトイ新聞」の人気連載だった原作を『ALWAYS 三丁目の夕日'64』で監督助手を務めるなど、第一線の現場でキャリアを積んできた真壁伸紀が映画化。満を持しての長編監督デビュー作で、笑いあり涙ありの心温まるエンターテインメントを作り上げた。スタッフも、日本アカデミー賞最優秀撮影賞を3度受賞している撮影の坂崎幸三をはじめ、『ALWAYS』シリーズのベテランがずらり。スクリーンに映し出される四国や高山の美しい風景も、本作の見どころの一つとなっている。



伊藤淳史

山本美月 清塚信平

濱田大助 渡瀬健秀 鈴木祐輔 内藤夢 有馬芳彦 松本正樹

濱田岳 / 松田美由紀

イッセー尾形

